

エコアクション21

環境経営レポート

2022年度

2022年4月～2023年3月

作成日：2023年11月30日



株式会社ヤマザキマテックス

宮城県仙台市宮城野区田子一丁目11-14

TEL:022-388-7783 FAX:022-254-7771

URL:<http://yamazaki-matex.jp/>

目次

1	環境経営方針	P1
2	組織の概要	P2
3	実施体制	P3
4	環境経営目標	P4
5	環境経営計画	P5
6	環境経営目標の達成状況	P6
7	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟の有無	P7
8	代表者による全体評価と見直し・指示	P8

環境経営方針

<基本理念>

株式会社ヤマザキマテックスは、電設資材の設計・製作を通して社会的に有用で安全性かつ環境保全に配慮した技術や製品及びサービスを開発・提供し、環境経営の継続的な改善を進めていきます。

<行動指針>

- 地球温暖化防止のため、二酸化炭素の削減に取り組みます。
- 不要な電気使用を控え節電に努めます。
- 環境と安全に配慮した運転を心掛けます。
- グリーン購入を推進します。
- 省資源のため、節水とコピー用紙等の使用量削減に努めます。
- 資源の有効利用のため、リサイクルの推進に努めます。
- 環境関連法規等を遵守します。
- 環境配慮型製品の開発に努めます。
- 環境経営の継続的な改善を進める為、環境経営方針を全従業員に周知します。

制定日 : 2017年9月1日

改訂日 : 2023年5月19日

株式会社ヤマザキマテックス
代表取締役 高澤徳幸

組織の概要

事業所名

- 株式会社ヤマザキマテックス

代表者名

- 代表取締役 高澤 徳幸

所在地

- 本社 〒983-0021 宮城県仙台市宮城野区田子一丁目11-14
- 関東事務所 〒342-0055 埼玉県吉川市吉川一丁目2-1 0-103

環境管理責任者

- 高澤 豊美

環境管理担当者

- 坂戸 義昭 高澤 健之 藤原 昌

連絡先

- TEL 022-388-7783
- FAX 022-254-7771
- Email sakato@yamazaki-matex.co.jp

事業活動の概要

- 電気設備資材においての特注品の設計・製作・施工（一般・諸官庁仕様）

事業の規模

- 設立 2003年2月17日
- 売上高・従業員数・延床面積

事業年度	2018	2019	2020	2021	2022
売上高（百万）	713	688	601	690	1340
従業員数（人）	17	19	20	20	24
延べ床面積（㎡）	82.98	143	143	143	143

認証・登録範囲

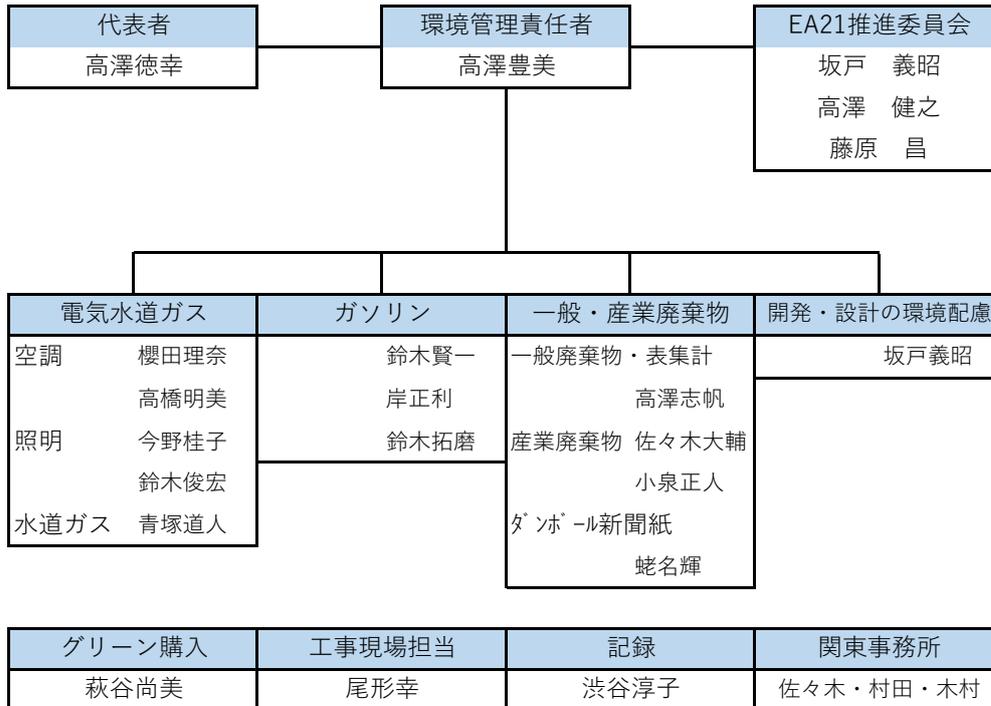
- 全組織・全活動

環境経営レポートの対象取組期間

- 2022年4月1日～2023年3月31日

※関東事務所は、2021年10月より拡大し、エコアクションの運用開始する。

実施体制



- 代表者
- ・ 環境経営を統括責任
 - ・ E A 2 1 の取組に必要な人、設備、費用、時間、技術者を準備
 - ・ 実施体制を構築する（組織図及び役割・責任・権限 / 環境管理者の任命）
 - ・ 経営上の課題とチャンスの明確化
 - ・ 環境管理責任者及び各担当部門者の任命と全従業員への周知
 - ・ 環境経営方針の策定、見直しと経営計画書、環境経営レポートの承認
 - ・ 代表者による全体の評価と見直し・指示を実施

- 環境管理責任者
- ・ E A 2 1 の構築、実施、管理
 - ・ 環境経営目標、経営計画書を確認
 - ・ 環境経営の取組結果を代表者への報告と環境経営レポートの確認

- EA 2 1 推進委員会
- ・ 環境管理責任者の補佐
 - ・ 環境経営目標、経営計画書の作成
 - ・ 環境経営の実績集計
 - ・ 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び評価の実施
 - ・ 環境経営レポートの作成
 - ・ 各部門者との相談窓口

- 各部門
- ・ 環境経営方針の周知と E A 2 1 取組の実施
 - ・ 担当部門内で環境経営方針や環境経営目標の周知徹底
 - ・ 環境経営計画を部門内で自主的、積極的に活動する
 - ・ 環境経営の実施及び達成状況の報告
 - ・ 担当部内で問題の発見、是正、予防処置の実施と相談
 - ・ 全社員一つになり環境経営の取組を実施

※関東事務所の管理は、環境管理責任者が兼務し、管理する。

環境経営目標

本法人は、2017年9月から、エコアクション21の取り組みを開始しました。
 環境経営目標は2018年度を基準として2019年度から2021年度までの目標を策定しました。
 2019年度に事務所を移転したため、2020年度の結果を基準として新たに目標を設定します。
 ※関東事務所は環境影響が小さいため、全社目標に含めて管理します。

■環境経営目標の設定

環境経営目標項目	基準年度	中長期目標（3年）		
	2020年度 実績	2021年度目標 (2021.4～2022.3)	2022年度目標 (2022.4～2023.3)	2023年度目標 (2023.4～2024.3)
二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂)	75,822	2020年度比1%減	2020年度比2%減	2020年度比3%減
一般廃棄物排出量 (kg)	1,075	2020年度比1%減	2020年度比2%減	2020年度比3%減
産業廃棄物排出量 (kg)	240	可能な限り リサイクルに努める	可能な限り リサイクルに努める	可能な限り リサイクルに努める
総排水量 (水使用量) (m ³)	96	2020年度比1%減	2020年度比2%減	2020年度比3%減
グリーン購入	37%	50%を目指す	50%を目指す	50%を目指す
環境配慮型製品の 開発・設計	36%	50%を目指す	50%を目指す	50%を目指す

■環境経営目標値

環境経営目標項目	2020年度（2020.4～2020.3） の排出量の実績（基準年度）	取組期間 2022年度 (2022.4～2023.3) 目標値
二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	75,822	74,306
電気使用量(kWh)	25,664	25,151
L P G 使用量(m ³)	10.9	10.7
ガソリン使用量(L)	17,874	17,516
軽油使用量(L)	8,723	8,549
一般廃棄物排出量(kg)	1,075	1,054
産業廃棄物排出量(kg)	240	可能な限りリサイクルに努める
総排水量（水使用量）(m ³)	96	94.1
灯油（L）	36	35.3
グリーン購入(%)	37%	50%を目指す
環境配慮型製品の開発・設計（%）	36%	50%を目指す

※電気の二酸化炭素排出係数は令和2年度の東北電力の調整後排出係数0.457kg-CO₂/kWhを使用しています。

※化学物質は使用していません。

環境経営計画 & 取り組み状況の確認・評価

活動結果：○良好 △不十分 ×未実施

環境経営計画（どのように）	実施時期	前期/後期	評価
1. 電気使用量の削減			
（1）電気使用量の削減			
■ 不必要な照明器具の間引き	通年	○/○	休憩時の消灯を実施
■ PCの省エネモードへの設定	通年	○/○	常時設定
■ 使用していないエリアの照明は消す	通年	△/△	意識の向上が必要
■ OA機器・家電製品の待機電力の削減	通年	○/○	スリープモード設定
■ 室温は暖房期20℃冷房期28℃で管理する	通年	△/△	管理の徹底
■ 定期的エアコンのフィルターを清掃する	年2回	○/○	11月・3月実施
（2）ガソリン・軽油の削減			
■ エコドライブの勉強会開催	9月	—	
■ アイドリング停止の徹底	通年	○/○	車内に掲示
■ 燃費管理	月1回	○/○	毎月末に提出
（3）二酸化炭素排出量の削減			
■ 搬入車両・工事車両等のアイドリングストップ	通年	○/○	外注先への周知の徹底
■ 発電機等の効率運転	通年	○/○	常時確認
■ 休憩時、未使用時における現場用の電源の遮断	通年	○/○	二重の確認
2. 廃棄物排出量の削減			
（1）一般廃棄物の削減			
■ コピー数量削減の表示	通年	△/△	掲示・電子化
■ OA紙の裏表利用・縮小コピーなど	通年	○/○	掲示
■ データ把握	月1回	○/○	毎月末集計表の提出
（2）産業廃棄物の削減			
■ 分別ルールの徹底	通年	○/○	現場ルールの遵守
■ 分別の徹底	通年	○/○	掲示
■ 廃棄物置場の整理	月1回	○/○	掲示及び整頓
■ データ把握	月1回	○/○	毎月末に提出
3. 総排水量の削減（水使用量の削減）			
■ トイレの流水量の調整	9月	○/○	節水型便器を使用
■ 手洗い時の節水（掲示）	通年	○/○	節水に努める
4. グリーン購入の推進			
■ 実績の把握	通年	○/○	毎月集計を取る
■ 事務用品はグリーン購入に努める	通年	○/○	優先的に購入
■ 下請・協力業者の選定時は環境への取組の有無を配慮する	通年	○/○	周知の徹底
5. 開発・設計の環境配慮等方針の策定			
■ 無駄のない設計（端材の少ない設計）	通年	○/○	製作時工場との蜜な打合せ
■ 客先への設計アドバイス	通年	○/○	材料を中心とした設計変更依頼

※関東事務所は、該当する事項について、この計画に準じる。

■ 全体の評価

各担当者の環境経営計画に対して取組意識にムラがあり、一部の担当者のみが活動している状況が見られた。計画に対しての活動結果はほぼ良好であった。

■ 次年度の取組内容

社内全体が同じ意識を持てるように「環境教育」を実施する。

以前より活動している取組みや新規で行う取組みを環境経営計画に取入れる。

環境経営目標の達成状況の確認・評価

項目	基準値	目標値	実績	実績	実績	評価
	2020年度	2022年度	2020年度	2021年度	2022年度	
二酸化炭素排出量 (kg-CO2)	75,822	74,306	75,822	72,241	59,851	目標値から19%減 ○
電気使用量 (kWh)	25,664	25,151	25,664	24,624	28,028	目標値から11%増 ×
L P G使用量 (m3)	10.9	10.7	10.9	9.9	34.5	目標値から223%増 ×
ガソリン使用量 (L)	17,874	17,516	17,874	16,524	15,797	目標値から10%減 ○
軽油使用量 (L)	8,723	8,549	8,723	7,610	2,685	目標値から69%減 ◎
一般廃棄物排出量 (kg)	1,075	1,054	1,075	935	1,162	目標値から10%増 ×
産業廃棄物排出量 (kg)	240	可能な限りリサイクルに努める	240	271	369	昨年度から36%増 ×
総排水量 (水使用量) (m3)	96	94	96	88	113	目標値から20%増 ×
灯油 (L)	36	35	36	54	0	無
グリーン購入 (%)	37	50%を目指す	37	38	40	目標値から20%減 × 基準値から5%増 ○
環境配慮型製品の 開発・設計 (%)	36	50%を目指す	36	33	26	目標値から48%減 × 基準値から22%減 ×

<p>結果の原因・理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気使用量 日々の寒暖差を考えたエアコンの使用が出来ず一定の温度管理で運用した。(関東分増含む) ・LPG使用量 本社のみでは給湯器のみの使用なので横ばいの数値だが、関東分が増加となった ・ガソリン使用量 期間の途中より1台増となったが1割減となったのはエコドライブが浸透したと思われる。 ・軽油使用量 前期より可動車が1台減となったことが7割減となった大きな要因である。 ・一般廃棄物排出量 日常に出るごみの削減は出来たが購入品の配送用段ボール処分量が増加した。 ・産業廃棄物排出量 会社設備の家具等の処分があり増加した。 ・総排水量 本社のみでは横ばいの数値だが、関東分が増加となった。 ・灯油使用量 前期は暖房用に使用していたが今期は廃止した。 ・グリーン購入割合 普段よりグリーン購入を心がけ微増となった。 ・環境配慮型製品の開発・設計 環境配慮出来る受注の割合が少なくなった事が要因と思われる。 ・二酸化炭素排出量 基準値より2割減となった。社用車の燃料使用量が削減できたのが大きな要因である。

環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟の有無

本法人が遵守すべき環境関連法規等は以下のとおりです。

環境関連法規等の名称	遵守すべき内容	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物を排出する場合：委託基準、委託契約書、マニフェスト交付・返却確認・交付状況報告。	○
家電リサイクル法	特定家電を廃棄する場合：リサイクル料金の支払。家電マニフェストの写しの交付を受ける。	○
自動車リサイクル法	自動車を廃棄する場合：リサイクル費用の負担。登録業者に引き渡す。引取証明書を受け取る。	○
建設リサイクル法	建設廃棄物の発生抑制と建設廃棄物の再資源化の日用低減化に努める。再資源化の促進に努める。	○
フロン排出抑制法	業務用エアコンの簡易点検を3ヶ月に1回以上行う。	○

環境関連法規への違反状態はありません。

なお、関係当局より違反等の指摘は過去5年間ありません。

また、近隣等からの苦情、お申し出はありません。

代表者による全体の評価と見直し・指示の記録

見直し年月日	2023 年 5 月 15 日 (時間：11:00～12:00)
場 所	ヤマザキマテックス
出席者	高沢徳幸・高沢豊美・坂戸義昭・高澤健之・藤原昌
見直し結果	下記のとおり

見直し 関連 情報	点検項目	環境管理責任者の説明概要, 提案等	備 考
	環境経営目標及び 達成状況	二酸化炭素排出量が21%削減出来た。ガソリン・軽油の減少が大きい。廃棄物の増加、グリーン購入は増加、環境配慮型製品の設計開発は減少となった。	
	環境経営計画及び 実施状況	実施に対して従業員によってはムラが出てきている。	
	環境関連法規の 遵守状況	違反状態は認められませんでした	
	外部からの 苦情・要望関連事項	外部からの苦情・訴訟ともになし	
	是正及び予防処置 の状況	個々の活動への意識を持続させるため、注意喚起を行い、環境への配慮を呼びかけている。	
	内部監査結果	-	
	前回までの代表者 指示事項への対応	より良い企業にという大きな目標に対して活動を通じて社内のコミュニケーションが測れているのではないかと考える。	

代 表 者 と に よ る 見 直 し 全 体 評 価	点検項目	見直し要否	代表者による指示事項	対応責任者
	環境経営方針	否	変更の必要性なし	
	環境経営目標	否	目標値をクリアする様努めること。 目標の範囲を対外的にも広げる。	
	環境経営計画	否	目標を広げる事により見直しが必要。	
	環境関連法規の遵守	否	継続	
	実施体制	否	社員の増加により人員配置を適切にする。	
	その他			

〈代表者の総合評価・コメント〉 (環境経営システムの有効性, 環境への取組の適切性等)
<p>昨年度より二酸化炭素排出量が19%減少した事は喜ばしい事です。内訳を考察すると軽油使用の社用車の常時可動台数が減った事が大きな要因であるが、エネルギー関連他項目も基準値より減少している事を考えると従業員が普段から、エコアクション21の活動で地球環境へ配慮し生活をしなければならないという気持ちが定着しつつあるのではないかと評価します。</p> <p>仕事環境を改善する方向に進んでいるからこそ売上向上に繋がっていると考えます。</p> <p>しかし、所謂ごみの処理については今後の課題になってくるでしょう。一般廃棄物排出量は基準値より10%増加、産業廃棄物排出量は36%増加となっている。この結果を、問題意識をもって今後の活動に生かして行って欲しい。</p> <p>また、活動目標に記載しなかった、これまでも行っていた活動も目標に取入れる事で従来の環境活動へのヒントとなり、従業員全てに環境経営活動への意識が更に広がって行く事を願いたい。</p>